参加者資料

令和７年度　定時総会

日　時：令和７年 ５月 26 日（月）　13：30　～　16：00

会　場：東京都　アルカディア市ヶ谷(私学会館)

一般社団法人
日本看護学校協議会
Japan Nursing School Association

目　　次

一般社団法人日本看護学校協議会がめざすもの……　1

令和７年度総会プログラム……　2

第１号議案　令和６年度事業報告……　3~26

第２号議案　令和６年度会計決算及び監査報告……　27~34

第３号議案　令和７年度事業計画（案）……　35~47

第４号議案　令和７年度会計予算（案）……　48~51

第５号議案　令和７年度役員改選（案）……　52

一般社団法人日本看護学校協議会がめざすもの

目　的（定款第３条）

本会は、看護師等養成施設の発展向上に関する事業を行い、わが国の保健・医療・福祉の発展と安全に寄与することを目的とする。

事　業（定款第４条）

本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

⑴　看護師等養成施設の管理運営及び施設の改善向上に関する調査研究、及び看護師等養成施設に対する助言・指導

⑵　看護師等養成施設の実態についての調査研究

⑶　看護師等養成施設の教育についての調査研究、及び看護師等養成施設に対する助言・指導

⑷　看護師等養成施設に所属する教職員を対象とする学会、及び研究会等に対する支援

⑸　正会員の行う事業に関して政府その他関係機関並びに団体との連絡協議

⑹　機関誌の発行及び広報活動

⑺　看護師等養成施設に対する研究奨励

⑻　看護職教育の場における安全対策に関する調査研究、及び普及・啓発

⑼　その他、前各項に附帯関連する一切の事業

令和７年度　一般社団法人日本看護学校協議会 定時総会 プログラム

オリエンテーション

1.　開　会

1) 主催者挨拶　　一般社団法人日本看護学校協議会　　会　長　　水方　智子

2.　議　事

1）議長選任

2）議事録署名人選任

3）議　事

第１号議案　令和６年度事業報告

第２号議案　令和６年度会計決算及び監査報告

第３号議案　令和７年度事業計画（案）

第４号議案　令和７年度会計予算（案）

第５号議案　令和７年度役員改選（案）

3.　閉　会

別添資料　1.　定款

2.　会費規程

3.　役員選任規程

第１号議案　令和６年度 事業報告

令和６年度 事業計画

○事業方針

令和４年度からの新中期目標を以下の通りに示す。

１．看護職養成施設の役割の拡大を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。
２．看護教員の質向上、確保・定着に向け、看護教員の継続教育システムをより充実させる。
３．当協議会の活動を広報し、組織率をあげる。
４．会員校のニーズを把握しつつ、これからの社会が求める看護職のあり方について看護基礎教育を担う団体として提言を行う。

令和６年度重点事業方針を以下の通り提案する。

１．看護職養成施設の役割の拡大を図り、地域とともにある学校づくりの定着を支援する。

令和４年（看護師２年課程は令和５年）入学生から導入された第５次指定規則改定により、「地域・在宅看護論」が新設され臨地実習の場も緩和された。地域とともにある学校づくりの定着を支援するために、各学校の特色ある取り組みを発表できる仕組みを作ることで、看護師等養成所全体のモチベーションアップをはかるとともに、学校自己評価・自己点検を発展させた形で地域毎の「学校間ピアレビュー」を継続する。

２．看護教員の確保・定着・質向上に向け、看護教員の継続教育のシステムをより充実させる。

看護教員の継続教育システムをより充実させるために、令和５年度から開始した「中堅教員のための講習会」を継続実施する。これにより、Step1：専任教員養成講習会（環太平洋大学との連携）、Step2 新任期教員対象「授業づくり講習会」、Step3：中堅期教員対象「中堅期看護教員スキルアップ研修会」、Step4：熟達期教員対象「教務主任養成講習会」と、看護教員がラダーに沿ってステップアップ出来るしくみを充実させる。さらに、看護職員が看護学校で看護基礎教育を体験出来る「看護教員インターンシップ（1 日看護教員体験）により看護教員の魅力を伝え、看護教員確保につなげる。

３．当協議会の活動を広報し、組織率をあげる。

令和５年度の会員は 448 校であり、組織率 50%には届いていない。18 歳人口の減少に伴い今後も看護師等養成所数が減少する可能性がある。会員校のニーズに応じた研修会や講習会等を実施するとともに、更新したホームページやリーフレットなどを積極的に活用し、ブロック活動を中心として非会員校にも加入を呼びかける。また、学校長会・新任期教員対象研修会などには非会員校も参加可能とし入会につなげる。

４．会員校のニーズを把握しつつ、これからの社会が求める看護職のあり方について、看護基礎教育を担う団体として提言を行う。

研修会や情報交換会等で会員校からのニーズを把握し、その要望や意見を関係団体に提案する。また、厚生労働省など国の事業に協力するとともに、日本医師会・日本看護協会等とも連携して事業をすすめる中で、看護基礎教育を担う実務者の団体として、看護師等養成所の管理運営及び教育等に関する調査研究を行う。その結果を提言し公表することで看護師等養成所の発展向上に寄与する。

○　令和６年度　具体的活動

	具体的活動
1．地域とともにある学校づくりの定着支援	1）会員校のカリキュラム編成の相談に応じ必要な支援 ・改定カリキュラム運用実施への支援 2）学校自己点検・自己評価の実施率向上を目指した支援 ・都道府県毎の「学校間ピアレビューを推進、3 年目のモデル地区として千葉県看護学校協議会に継続委託 ・第３者評価委員会設立に向けた準備の開始 3）各学校の取り組み紹介 ・「私の学校自慢」を募集し、表彰式を学会で実施するとともに、その結果をホームページにも掲載。 4）研究活動の推進 ・第36回（一社）日本看護学校協議会学会を開催（愛知県） ・研究活動に対する助成 5）教育課程毎の課題についての検討 〇各ブロック研修会の運営 〇部会の運営（統合カリキュラム、准看護師課程） 6）学校経営・管理に関する必要な支援 ・必要に応じて情報を収集・分析し、会員校へ発信 ・相談に応じて支援
2．看護教員の確保・定着・質向上に向けた看護教員の継続教育システムの充実	1）　看護教員インターンシップ（1 日看護教員体験事業）の実施 ・看護教員に興味のある看護職を募り、近くの学校で体験出来るしくみの充実 2）　環太平洋大学との提携による専任教員養成を継続支援 3）　新任期教員対象の「授業づくり」研修の充実 ・自分が担当する単元を計画・実施（模擬授業）・評価（リフレクション）するため、夏に東京、冬に大阪で対面実施。 4）　中堅期看護教員のスキルアップ研修会の継続 ・「学校経営に関心を持ち、自らが視野を広げて役割を理解し、組織力向上に貢献できる人材育成」を目的に、4 月～2 月までの間で全5 日間をオンラインと対面を組み合わせながら実施 5）　教務主任養成講習会の継続実施 ・東京（横浜実践看護専門学校）と大阪(夏：堺看護専門学校、冬：アンピールホテル大阪)の２会場で開催 6)専任教員の交流会を実施 ・年２回、経験年数や専門領域毎の仲間と交流し看護教員同士の繋がりをつくる。 7）合理的配慮やハラスメントに関する研修会の継続実施 8）令和５・６年度の地域医療基盤開発推進研究事業の継続実施 ・「看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究」

3. 組織率の向上	1）ホームページの充実 ・タイムリーに情報発信することで、協議会の活動を広報。 ・お知らせやご案内等、郵送からホームページ上での情報発信へ切り替える。 2）各ブロック活動の充実 ・ブロック毎の研修会での広報 ・非会員校へのアプローチを行い当協議会の組織率をあげる。 ・集約した意見・要望を全国都道府県代表者会へつなぐ 3）研修会や講習会などの非会員校へも案内 ・協議会の活動実態を広く広報するために、非会員校への案内も継続。
４．看護基礎教育を担う団体としての提言	1）学校長会、副学校長・教務主任会、事務担当者会を実施 2）全国都道府県代表者会を実施 3）ブロック県代表者会議を実施 4）関係省庁・関係団体との協力体制強化 ・検討会等への委員の派遣 ・関係省庁への要望・陳情活動 ・関係団体との協力体制の強化　等 5）保健師助産師看護師国家試験について国への意見要望 6）看護師等養成所の学校運営に関する必要な調査を適宜実施 ・令和６年(2024 年)度実施の「管理・運営に関する実態調査」に、看護教員の業務実態及び給料形態などに対する内容を追加。 7）(一社)日本看護学校協議会共済会との連携継続 ・教育現場のニーズを把握し、共済会の商品開発に協力する。 8）賛助会員との連携継続 ・雑誌投稿、商品開発など 9）対外的に積極的な情報発信 ・必要時、関係省庁への要望･陳情等に関するプレスリリースを、厚生労働記者会及び厚生日比谷クラブに向け発信 10）厚生労働省の看護課へ研修生の派遣

令和６年度事業総括

1. 地域とともにある学校づくりの定着

1）会員校のカリキュラム編成の相談に応じ必要な支援

令和６年は、看護師３年課程では第５次指定規則改定の実施から３年目を迎えた。今後改訂されたカリキュラムの評価を行っていくこととなる。この３年間のなかで事務局に直接寄せられたカリキュラム運営等に関する相談等はなく、直接的な運用支援の要請はなかった。

2）学校自己点検・自己評価の実施率向上を目指した支援

都道府県毎の「学校間ピアレビュー」を推進するための２年目のモデル地区として千葉県看護学校協議会に引き続き委託をした。当協議会はアンケート調査を行い、希望者のとりまとめ８月～12月に学校間ピアレビューを実施した。10校18名（複数参加あり）が参加をして相互にとって有意義な取り組みとなった。

3）各学校の取り組み紹介

今年度３回目となった「私の学校自慢」の応募数は30題（昨年は37演題）であった。今年度は複数応募校２校５演題で、優秀賞３演題、奨励賞８演題を学会で表彰し、ホームページに公開をした。取り組みは定着しつつあるものの応募が学会ギリギリになるためスムーズな運営のために募集を早めていくこととする。

4）研究活動の推進

・第36回日本看護学校協議会学会を愛知県で８月１・２日に開催した。テーマは「終末期の命を支える看護-AI時代に看取りを考える-」で、多死社会の昨今における貴重な内容であった。参加者879名と多数でその内訳は、会場は会員校242名・非会員校71名、オンライン参加者会員校69名・非会員校14名で396名、看護学生483名であった。テーマへの関心の高さと広報活動が十分に行われ成果であり、学び多き有意義な学会となった。

・研究等奨励事業では１件申請があり、条件付き採用となった。

5）教育課程毎の課題についての検討

・統合カリキュラム教育実施施設部会は、北里大学保健衛生専門学院が当番校となり８月７日に実施。オンラインにて情報交換会と講演会「電子媒体の導入が学習効果に与える影響と配慮すべき点」を実施した。

・准看護師養成教育実施施設部会は、９月14日に当番校甲府看護専門学校が対面にて開催。「ハワイ州における准看護師制度とその運用」のテーマで講演会を実施した。

6）学校経営・管理に関する必要な支援

・看護師等養成所の管理・運営等に関する実態調査を令和６年８月～９月に実施し、A調査348課程、B調査1,183件の回答を得た。今年度初めて看護教員個人調査（調査B）を行い、専任教員に転職後、「給与総額が5～10万円の減収」が38％と最も多く、さらに時間外労働の多くが授業・演習準備であること等明らかになった。

・ハラスメント等に関する看護学生（保護者）からの電話相談が年間20件以上であった。相談件数そのものは昨年から大きく変化はないが、その内容の深刻さは増しており都道府県等につなげていったが、解決方向が見えない相談もあった。

7）ハラスメント防止に向けた研修会

・10月１日オンラインによる半日の研修会を開催した。会員校205名、非会員11名、都道府県担当者４名合計220名（135施設）の参加であった。今年度は講演会と実践報告、情報交換会を行い、より実践的な研修会内容で開催した。98％が参考になったと回答し、88％が研修会の継続を希望していた。

特に実践報告の希望が多く、引き続き研修会を開催していく必要性を実感する結果であった。

2. 看護教員の確保・定着・質向上に向けた看護教員の継続教育システムの充実

1）看護教員インターンシップ（1 日看護教員体験事業）の開始

令和 5 年度から看護教員に興味のある看護職を募り、希望する学校で職場体験ができる仕組みである。申込総数は 43 名（うち 10 名キャンセル）、看護職経験年数は 5 年 6 か月～24 年まで幅広い。33 校の養成校で実施した。

2）環太平洋大学との連携による専任教員養成を継続支援

例年と同様に講師の派遣と教育実習生の受け入れに協力・支援している。令和 6 年度の状況について、入学生 65 名の内、当協議会会員校は 27 名である。累計の卒業生は 662 名となっている。

3）新任期教員対象の「授業づくり」研修の継続

今年度から目黒悟先生に講師を依頼し、授業デザインとリフレクションに内容を変更し、各研修生が模擬授業を行ってみる方法に変更をした。また、東京（8 月実施）と大阪（1 月実施）の 2 会場で実施した。1 月は実習指導等があり参加が難しいとの声もあり、今後開催日程については検討が必要である。研修期間は 5 日間とし、中日 3 日目は自己学習とした。研修生の満足度、達成感は高く学習効果を実感できている。来年度も継続していく。

4）中堅期看護教員スキルアップ研修会の開催

昨年度と同様に学校経営に関心を持ち、自らが視野を広げて役割を理解し、組織力向上に貢献できる人材育成を目的に、約 1 年かけて実施したことはリーダーに必要な問題解決能力について考察でき効果的であった。途中、中間発表前に 1 名の辞退があったが、多くの研修生の満足感は高かった。

また、昨年同様にフィールドワークの受け入れ校からも丁寧に対応していただき、研修生は「対話」の大切さや意見が尊重されるシステムづくりなど組織マネージメントの大切さについて学んでいた。

5）教務主任養成講習会の継続実施

今年度は東京会場、大阪会場に分かれて実施した。東京会場は横浜実践看護専門学校、大阪会場は夏期が堺看護専門学校、冬期はアンピールホテル大阪で実施した。交通の便のよい東京会場を希望する受講生が多く、大阪会場の受講生が少ない状況であった。また、ｅラーニング、対面授業共に、どの科目も概ね満足度が高い結果となった。

6）専任教員の交流会を実施

専任教員の定着と質向上を目的として今年度も実施した。令和 6 年 8 月 23 日に第 1 回目を実施、70 名の参加者であった。第 2 回目を令和 7 年 2 月 21 日に実施、94 名の参加者であった。アンケート結果では「モヤモヤが晴れてリフレッシュできた」、「また参加したい」等の感想が多かった。

7）令和 5・6 年度の地域医療基盤開発推進研究事業の実施

昨年度の結果を踏まえて、「看護教員の継続教育に対するニーズのための研究」を継続し、経験の異なる看護教員にそれぞれが抱えている学校運営の現状についてヒアリング調査を実施した。学校組織全体としての問題・課題をより焦点化でき、解決への示唆をえることができた。また、昨年と同様に、協議会で実施している新任期・中堅期・教務主任研修の効果検討を行った。それぞれの研修でアンケート調査を行い、その結果の分析評価を実施した。5 月末に調査結果を厚生労働省に提出する。

3. 組織率の向上

1)ホームページ

タイムリーな情報掲載のしくみ、画面の見やすさ等についてオブザーバー（専門家）を交えて検討し修正をしていった。専門家を交えた会議ではアクセス状況などが分析されて、ホームページの活用状況なども把握することが出来た。

2) 各ブロック活動の充実

７ブロックともに研修会とブロック代表者会議を開催した。今年度は、ブロック毎に行われていた研修会における講師料支払いや請求書発行などをインボイスの関係で事務局に一元化して行った。次年度は研修システムを大幅に変更して、開催に係る事務作業の簡素化が図られスムーズな研修会の運営ができるように進めていく予定である。

3) 研修会や講習会などの非会員校へご案内

ブロック毎の研修会情報やその結果をホームページに掲載し、広報活動を行っていった。昨年に引き続き当協議会の組織率をあげるべく、ブロック研修会毎に会長・副会長が協議会の活動案内と入会のお願いをしていった。さらに、研修会にはブロック代表者を通じて非会員校にも案内し、協議会の活動実態を広く広報していった。直接的な会員校増加にはつながってはいないが、引き続き研修会への案内と共に参加校へのフォローアップ活動を実施していく。

４．看護基礎教育を担う団体としての提言

1)「学校長会」「事務担当者会」「副学校長・教務主任会」を実施。

学校長会を5月28日にアルカディア市ヶ谷(私学会館)でハイブリッド実施。プログラム内容は、協議会からの令和5年度事業報告(1) 令和5年度厚生労働省看護職員確保対策事業概要 ①看護師等養成所におけるハラスメント対応事例収集事業 ②看護師等養成所における DX 促進に向けた実態調査、(2)令和 5 年度厚生労働行政推進調査事業(地域医療基盤開発推進研究事業補助金) 看護教育の継続教育に対するニーズ把握のための研究概要 ①当協議会実施の研修会の評価 ②看護師等養成所の実態調査 ③当協議会以外の講習会の整理であった。講演は、テーマ「看護師等養成所における合理的配慮について」 講師 NPO 法人 DPI 日本会議 議長補佐 崔 栄繁 氏が講演し好評であった。

事務担当者会は10月9日にアルカディア市ヶ谷(私学会館)でハイブリッド実施。事務担当者間での連携に有用であるとの参加者評価が認められた。

副学校長・教務主任会は12月9日にオンラインで実施、北海道医療大学名誉教授石垣靖子氏が、「教員が活き活きと活躍できる組織管理」のテーマで講演し好評であった。協議会から令和6年度看護師等養成所の管理・運営等に関する実態調査報告、看護教員の継続教育のニーズのための研究報告が行われた。

2) 全国都道府県代表者会

11月20日に対面でアルカディア市ヶ谷(私学会館)で実施。「看護基礎教育機関と連携」テーマでの一貫した講話・報告がされた。テーマである「課題解決へ、つながりつながる看護教育」に関して、地域や都道府県との連携に関する実践報告がされた。協議会からの報告「2023 (R5) 年度看護師等養成所の管理・運営等に関する調査速報」後、「福島県における看護基礎教育機関との連携　報告者　ポラリス保健看護学院 副学院長 渡辺美保子氏」、「千葉県の看護学校問題解決に向けた取り組み　報告者　勤医会東葛看護専門学校 副校長 山田かおる氏」、「看護学校における県と協力した処遇改善へ取り組み　報告者　共立高等看護学院 副学院長 河西光子氏」の実践報告が行われ好評であった。

3) ブロック県代表者会議

全７各ブロックにおいて、各都道府県における課題・ニードに即した研修会の実施が行われた。また、ブロック代表者会議においては活動報告・情報交換が行われた。

4）関係省庁・関係団体との協力体制強化

⑴ 検討会等への委員の派遣

会長、副会長、常任理事等の９件の派遣があった。

⑵ 関係省庁への要望・陳情活動

自民党看護問題小委員会委員長、厚生労働省医政局長、看護課長へ２件の要望書を提出。

5）保健師助産師看護師国家試験について国への意見要望

令和７年２月 21 日（金）厚生労働省へ意見書を提出した。

6）看護師等養成所の学校運営に関する必要な調査を適宜実施

令和６年に令和５年(2023 年)度の「看護師等養成所の管理・運営等に関する実態調査」を実施。
12 月に速報値の報告、１月にホームページで結果を公開した。

7）(一社)日本看護学校協議会共済会との連携継続

各事業の運営に協力をいただき、研修会等では共済会に広報の場を提供し、協力を深めた。

8）賛助会員との連携継続

各事業の運営に協力をいただき、研修会等では広報の場を提供し、協力を深めた。

9）厚生労働省の看護課へ研修生の派遣

厚生労働省看護課への研修生１名を派遣した。

○　事業内容

1.　学術・教育

1）教育研修会活動

令和６年度　学術・教育活動部会

【ねらい】

一般社団法人日本看護学校協議会の事業の中核である「看護教育の質向上に向けての継続的・計画的な活動の強化」において、具体的な実施を担う役割がある。

18 歳人口の減少に伴い質・量ともに入学生確保が難しい時代に入った。加えて、令和６年度から合理的配慮が義務化される等、多様な学生に対する倫理的対応が今まで以上に求められている。これは、看護教員自身が自分の看護観や教育観を問い直し、これからの看護基礎教育のあり方を模索するチャンスにもなる。よって、「知っていればできる」という知識伝授だけではなく、「実践から学ぶ」という個々の経験を大切にする内容も追加し、看護教育のダイナミックスさを実感出来るようにしたい。

よって、令和６年度は、「看護教員の教育実践能力向上に向けた活動」だけではなく、「合理的配慮やハラスメント対応への活動」、「看護師養成所の業務改善に関する活動」を実施する。

なお、教育委員会だけが実施するのではなく、ブロック活動委員会、国家試験・資格試験対策委員会、ハラスメント対策委員会との協働・協力しつつ、学校長会、副学校長・教務主任会の企画・運営に関しても、会長・副会長と協議しながら委員会としての役割を担うものとする。

【具体的活動内容】

１．年３回の教育研修会の企画・運営
　１）新任期看護教員及び看護養成講習会未受講者を対象とした教育研修会
　２）ハラスメント対応に関する教育研修会
　３）教育実践力向上及び業務改善のための ICT 教育研修会
２．中堅期看護教員スキルアップ研修会の企画・運営
３．学校長会および副学校長・教務主任会等の企画・運営

⑴ 新任期看護教員研修会

対象者　新人看護教員（教員経験３年未満）・看護教員養成講習会未受講者
開催日　令和６年 ８月 12 日（月・祝）・13 日（火）、15 日（木）・16 日（金）
会　場　千葉県　医療創生大学柏キャンパス 国際看護学部 看護学科
参加者　30 校 30 名

開催日　令和７年１月 20 日（月）・21 日（火）、23 日（木）・24 日（金）
会　場　大阪府　堺看護専門学校
参加者　33 校 35 名
講　義　講師　目黒　悟　氏

内　容　学生と共に学ぶ・共に創る授業のために　①
・授業デザインの基本的な考え方とその方法
・授業デザインの実際

学生と共に学ぶ・共に創る授業のために　②
・授業デザイン・本時展開の検討
・授業リフレクションの基本的な考え方
・集団による授業リフレクションの方法

気づき・気がかりを手がかりに　①
・模擬授業＋集団による授業リフレクションの実際（各会場にプロンプター2 名参加）
・Ｑ＆Ａ

気づき・気がかりを手がかりに　②
・模擬授業＋集団による授業リフレクションの提実際　　（各会場にプロンプター2 名参加）
・Ｑ＆Ａ
・まとめ　～実り豊かな授業に向けて～

⑵ 看護師等養成所におけるハラスメント防止に向けた研修会

開催日　令和６年10月１日（火）
方　法　オンライン
参加者　会員校124校205名　非会員校７校11名　都道府県４県４名
内　容　テーマ「看護学生のより良い学習環境を考える～ハラスメントのない学校を目指して～」

1. 講演 「看護師養成所におけるハラスメント防止について
～ハラスメント概念の理解とハラスメントが疑われた場合の対応～」
講師　蒔田 覚 氏（蒔田法律事務所　弁護士）

2. 実践報告「学生とともに取り組む学校づくり」
報告者　山田かおる氏（勤医会東葛看護専門学校　副校長）

3. グループワーク　テーマ「看護学生にとってより良い学習環境のために必要なこと」

⑶ 看護師等養成所のＤＸ推進化教育研修会

開催日　令和６年12月２日（月）
方　法　オンライン
参加者　会員校137校176名　非会員校６校６名
内　容　テーマ 「DXによる教育の質の向上 」

１．令和５年度看護職員確保対策特別事業
看護師等養成所におけるDX促進に向けた実態報告
日本看護学校協議会　副会長　戸田　悦子

2. デジタルツールを活用した教育活動の実際　グーグルクラスルーム
Google classroom編
砂川市立病院附属看護専門学校　専任教員　加藤　恵　氏
専任教員　西島　天　氏

3. デジタルツールを活用した教育活動の実際　365チームス
office 365 teams編
厚木看護専門学校　専任教員　赤堀　貴子　氏

4. DXを促進したデジタルツール導入プロセス
厚木看護門学校　学校長　五十嵐　一美　氏

5. 実践報告、全体での質疑応答

(4) 中堅期看護教員スキルアップ研修会

日　程：講義及びグループワーク　　令和6年4月13日（土）、4月27日（土）、4月28日（日）
自校での取り組み　　令和6年5月～8月（自校での取り組み）
自校での取り組みの報告会　　令和6年9月14日（土）（中間報告会）
他校でのフィールドワーク　　令和6年9月～令和6年2月（1～3日間）
まとめ・グループ発表・講評　令和7年2月15日（土）（対面）

方　法：オンライン：令和6年4月13日（土）、4月27日（土）、4月28日（日）、9月14日（土）
会　　場　：令和7年2月15日（土）アルカディア市ヶ谷（私学会館）

参加者：会員校46校52名

内　容：4月13日（土）
講 演1：中堅教員に必要な能力・看護や医療の動向
講 師1：会長　水方　智子
講 演2：経験学習と人材育成
講 師2：青山学院大学　経営学部経営学科 教授学部　教授　松尾　睦　氏

4月 27日（土）
講 演：看護学校におけるリーダーシップ
演 習：学校組織でのリーダーシップ上の課題は何か　演習
講 師：同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学大学院連合教職員実践研究科　教授　水本　徳明　氏

4月 28 日（日）
講 義：どのようなリーダーシップをとることが組織の活性化につながるか
演 習：グループワーク・発表
講 師：同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学大学院連合教職員実践研究科教授　水本　徳明　氏

令和6年5月～8月
自校での取り組み：自己のリーダー行動計画実施期間

9月14日（土）
中間報告会：4月の課題を踏まえて自己の実践を報告する

令和7年2月15日（土）（対面を予定）
演 習：グループ発表、まとめ講義・講評
講 師：同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学大学院連合教職員実践研究科教授　水本　徳明　氏

3) 専任教員交流会

第1回開催日：令和6年8月23日（金）　会員校38校67名　非会員校3校3名
第2回開催日：令和7年2月21日（金）　会員校47校91名　非会員校2校3名

4) 研究等奨励事業　令和6年10月の募集、1件の応募があり条件付き採用となった。

5）第36回学会

開催日　令和6年 8月1日（木）・2日（金）

参加者　879名
会場参加 〈事前申込〉（会員210名、非会員54名）
会場参加 〈当日参加〉（会員 32 名、非会員17名）
オンライン参加 （会員69名、非会員14名）
学生483名

会　場　ウインクあいち(愛知県産業労働センター)

テーマ　「終末期の命を支える看護―ＡＩ時代に看取りを考える―」

学会長　八事看護専門学校　学校長　内海　眞　氏

プログラム

(1) 演題発表　口演、示説

(2) 学会長講演　テーマ：「終末期の命から学ぶ」
講　師：八事看護専門学校　学校長　内海　眞　氏

特別講演1
講　師：厚生労働省医政局看護課　課長　習田　由美子　氏

特別講演2
テーマ：「想いを汲んで想いを紡ぐ ACP～その人らしく生きるを支える訪問看護の現場より～」
講　師：常滑市民病院訪問看護ステーションきずな　所長　渡邉　和子　氏

特別講演3
テーマ：「医療現場と看護科学における医療AIの果たす役割と展望」
講　師：名古屋大学　准教授　大山　慎太郎　氏

特別講演4
テーマ：「刈谷スマートウェルネスプロジェクト～最新技術を活用した地域医療・介護・健康分野のスマート化～」
講　師：刈谷市企画財政部企画政策課

特別講演5
テーマ：「最期まで家で笑って生きたいあなたへ ～なんとめでたいご臨終～」
講　師：小笠原内科・岐阜在宅ケアクリニック院長 日本在宅ホスピス協会 会長小笠原文雄氏

(3) シンポジウム　テーマ「それぞれの立場で終末期の命を考える」
座長：日本看護学校協議会　副会長　山田　かおる　氏
シンポジスト：① 真野　新也　氏 〈AIDSを乗り越えた人〉
② 渡邉　博司　氏 〈闘病中〉
③ 星　由美　氏 〈家族の立場〉 八事病院理事長　秘書
④ 畑中めぐみ　氏 〈愛知こどもホスピスプロジェクト〉
独立行政法人国立病院機構　名古屋医療センター
⑤ 井手　宏　氏 愛知国際病院　理事長

(4) ランチョンセミナー

学生主体の取組み

「“生きる”を支える時間が私たちに教えてくれたこと～明日の看護へつなぐために～」

「怖くないよ。私たちが、側にいるから」

訪問看護ステーション事業　株式会社栖のき　代表取締役　篠原　宏翠　氏

株式会社栖のき 子供と家族の生活相談室ことりね 管理者 小児看護専門看護師　伊東 佳洋 氏

6) 研修会等

(1) 学校長会

開催日　令和6年5月28日（火）

会　場　アルカディア市ヶ谷（私学会館）

テーマ　「健全な看護学校経営をめざして」

参加者　会場　　会員校 56 校　59名　賛助会員4社7名

オンライン 会員校198校 200名　賛助会員1社1名

内　容

1. 来賓挨拶・講話　厚生労働省医政局看護課　課長　習田　由美子　氏

2. 協議会からの令和5年度事業報告

1) 令和5年度 厚生労働省看護職員確保対策事業概要

・看護師等養成所におけるハラスメント対応事例収集事業

・看護師等養成所におけるDX促進に向けた実態調査

2) 令和5・6年

令和5年度厚生労働行政推進調査事業（補助金地域医療基盤開発推進研究事業）

看護教育の継続教育に対するニーズ把握のための研究概要

・当協議会実施の研修会の評価

・看護師等養成所の実態調査

・当協議会以外の講習会の整理

3) 第36回学会からのお知らせ

3. 講　演

テーマ「看護師等養成所における合理的配慮について」

講　師 NPO法人DPI日本会議　議長補佐　崔 栄繁　氏

4. 協議事項

・会員校からの提出議題

・協議会からの報告事項に関する質疑応答など

(2) 事務担当者会

開催日　令和6年10月9日（水）

会　場　アルカディア市ヶ谷（私学会館）

参加者　会場41校46名　オンライン95校100名

内　容　1. 開会、会長挨拶

教員の処遇改善に向けた実態調査報告　会長　水方　智子

2. 講話「看護師等学校養成所への支援について」

厚生労働省医政局 看護課　課長補佐　初村　恵　氏

3. 募集活動について
令和５年度学校基本調査報告
講師　株式会社ナガセ　東進ハイスクール
ビジネススクール本部　大学事業部　副部長　竹間　富夫　氏

4. 募集活動事例報告
1）オープンキャンパスの取組み（共立高等看護学院）
2）リトルナーススクールの取組み（主催：福島県）（太田看護専門学校）
3）小中学生を対象とした看護学校体験の取組み（共立高等看護学院）

5. DX 事例報告
板橋中央看護専門学校　事務長　榎並　孝　氏

6. 情報交換　グループワーク（設置主体別）（テーマ別）

⑶ 副学校長・教務主任会

開催日　令和６年 12 月９日（月）
方　法　オンライン
参加者　会員校 217 校 264 名　賛助会員２社３名

内　容　1. 講演「教員が活き活きと活躍できる組織管理」
北海道医療大学　名誉教授　石垣　靖子 氏

2. 令和６年度看護学校の管理・運営等に関する実態調査報告
日本看護学校協議会　副会長　戸田　悦子

3. 看護教員の継続教育のニーズのための研究
日本看護学校協議会　会長　水方　智子
1. 令和５年度調査結果
2. 令和６年度調査結果（インタビュー調査結果）

4. グループワーク
テーマ：教員が活き活きと活躍できるための組織課題と解決の糸口の探り方を共有し、
課題解決への視野を広げる

2.「日本看護学校協議会 教務主任養成講習会」

開催期間　令和６年４月 15 日(月)～令和７年１月８日(水)
受 講 者　６期生 42 名　５期生 47 名　４期生１名
講習方法　ｅラーニング及び対面授業（演習）

1）ｅラーニング　令和６年４月 15 日(月) ～11 月 24 日(日)
≪担当講師≫
⑴ 看護教育方法・評価開発　池西　静江氏（鹿児島医療技術専門学校　看護学科顧問）
石東　佳子氏（(専) 京都中央看護保健大学校　顧問）
⑵ 看護教育課程開発　高口みさき氏（公益社団法人愛知県看護協会 教育センター長）
⑶ 看護学校経営論　齊藤　茂子氏（東京工科大学医療保健学部　名誉教授）
⑷ リーダー論　水本　徳明氏
(同志社女子大学教職員課程センター特任教授・
京都教育大学大学院連合教職員実践研究科教授)

2）対面授業（演習）

⑴ 看護教育方法・評価開発演習　令和６年 7 月 17 日(水) ～7 月 31 日(水)
⑵ 看護教育課程開発演習　令和６年 7 月 24 日(水) ～8 月 15 日(木)
⑶ 看護学校経営論演習　令和６年 12 月 16 日(月) ～令和７年１月８日（水）
＊12 月 25 日～1 月 4 日（休講）

＊対面授業の会場　東京会場　夏期・冬期：横浜実践看護専門学校
大阪会場　夏期：堺看護専門学校　冬期：アンピールホテル大阪

＊リーダー論演習（5 期生、4 期生が対象）

≪担当講師≫

⑴ 看護教育方法・評価開発演習　池西　静江氏　齋藤　裕子氏
⑵ 看護教育課程開発演習　片野　裕美氏　渥美　美保氏
⑶ 看護学校経営論演習　鳥井元純子氏　小笠原　幸氏
⑷ リーダー論演習　鈴木留美子氏　水澤　晴代氏

＊対面授業（演習）の指導協力者

⑴ 看護教育方法・評価開発演習　2 名
⑵ 看護教育課程開発演習　3 名
⑶ 看護学校経営論演習　4 名

3. ブロック活動

令和６年度ブロック活動委員会方針

【ねらい】

ブロック活動委員会は、一般社団法人日本看護学校協議会(以下、本協議会)の事業方針をふまえ、全国 7 ブロックにおいて看護基礎教育に対するニーズや課題をもとに研修会等を積極的に企画運営し、年々、協議会の周知度の向上にも寄与している。今後益々、教育の質向上の為にも本協議会の組織拡大は必須であり、そのための各ブロックの役割は重要となってくる。今後更に全国都道府県代表者会などの機会を通して、全国の看護基礎教育機関の取り組みを共有するとともに、都道府県の看護学校協議会等との連携を図るパイプ役としての役割を継続的に果たす事とする。

以上のことから、令和６年度の活動内容は次の通りとする。

【令和６年度活動方針】

１．各ブロックの県代表者会議を通し、看護基礎教育の課題や協議会へのニーズの集約をする。
２．各ブロックにおける活動の充実：研修会、組織率強化策

【令和６年度具体的活動】

１．について
　1） 確実に検討事項を抽出し、全国都道府県代表者会で協議するプロセスを図る。
２．について
　1）協議会加盟校によるメリットの訴求策の構築
　2）非加盟校からの研修等参加者の追跡フォロー施策の構築
　3）各ブロック委員の意識付強化策の構築：加盟校目標をもとに事務局発信情報の徹底

＜各ブロックの研修会等＞

ブロック名	ブロック研修会		ブロック代表者会議
北海道	開催日 会　場 内　容	令和７年３月１日（土） リモート研修（北海道看護専門学校） 経験学習を促す認知徒弟制度による指導 講師：青山学院大学　教授　松尾　睦　氏	【第１回】 1）令和６年７月 29 日（月） 2）リモート会議 （砂川市立病院附属看護専門学校） 3）年度目標、年度事業計画 【第２回】 1）令和６年 12 月 13 日（金） 2）TKP 札幌カンファレンスセンター 3)報告事項 令和６年度活動報告 令和６年度都道府県代表者会報告 審議事項 令和７年度活動 令和 7・8 年度ブロック代表選出
東　北	開催日 会　場 内　容	令和６年８月９日（金） 山形県　山形テルサ ハイブリット形式 147 名参加　①対面：38 名、②オンライン：109 名 テーマ:「学生が学びたくなるワクワクのシミュレーション教育 講　師:愛媛大学医学部付属病院総合臨床研修センター 助教　内藤　知佐子 氏	令和５年８月９日（金）対面 山形県　山形テルサ 東北６県の代表者及び東北ブロック代表理事１名が揃い、新カリキュラムの運営状況や入学生確保、ICT 教育などテーマをもとに情報交換を行う。 また、事前に各県の取り組み紹介の資料を頂き、追加で情報共有及び意見交換を行う。
	開催日 内　容	令和７年３月 11 日（火） 会　場：福島県　ポラリス保健看護学院 方　法：ハイブリット形式　33 名参加 ①対面：11 名、②オンライン：22 名 ※2 団体共催開催 （東北ブロック、福島県看護学協議会） テーマ：「看護教員の確保と育成事業について」 シンポジウム 「看護教員インターンシップ事業」 日本看護学校協議会　水方智子会長 「短期学外研修事業」 ポラリス保健看護学院　渡辺美保子　氏 「ワークライフバランスが実践できる職場」 京都保健衛生専門学校　谷本千亜紀　氏 テーマ別グループディスカッション 学生発表会テーマ「私たちの学校自慢」	令和７年１月 31 日（金） web 開催 東北６県の代表者 第２回東北ブロック情報交換会 ・県代表者の役割 ・代表者の選出方法 ・東北ブロック連携システム ・ICT 教育の紹介 ・今年度の第２回研修会の企画

関東甲信越	開催日 会　場 テーマ 内　容	令和6年8月23日（金） 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校、オンライン併用 看護を学ぶ学生たちの学習支援 1.講　演：「看護を学ぶ学生たちの学習支援」 講　師：芝浦工業大学柏中学校生物学教室 生物学教諭　相馬　融　氏 2.グループワーク　自校の現状とその改善に向け研修を踏まえた意見交換	1）令和6年 4 月22日（月） 2）令和6年 8 月23日（金） 3）令和6年11月14日（木） 4）令和7年 1 月23日（木）
東　海	開催日 方　法 会　場 内　容	令和6年9月14日(土)　10:00～12:30 オンライン研修 メイン会場：名張市立看護専門学校 ※受講者は自校からオンラインで受講 テーマ：「高校におけるICT教育を理解し、看護基礎教育のICT教育に活かす視点を学ぶ」 講　師：古関　利勝　氏 (愛知県教育委員会ICT教育推進課　担当課長)	第1回:令和6年 6 月18日 第2回:令和6年 7 月24日 第3回:令和6年 8 月20日 第4回:令和6年10月18日 第5回:令和6年12月16日
近　畿	名　称 開催日 会　場 内　容	ブロック研修会 令和6年10月16日（水）14：00～16：00 アンピールホテル大阪 「看護専門学校における合理的配慮について考える」 会場参加：28名 オンライン参加：54校 日本看護学校協議会共済会　顧問弁護士 仁邦法律事務所　弁護士　墨岡　亮　氏	第1回 令和6年 8 月 8 日（木） 第2回 令和6年10月16日（水） 第3回 令和7年 2 月 6 日（木）
	名　称 開催日 会　場 内　容	ブロック交流会 令和6年8月8日（木）14：00～16：30 アンピールホテル大阪 各自検討したい内容を持ち寄り領域・役職別のグループに分かれ検討 参加者：35名（6府県）	
中国・四国	開催日 会　場 内　容	令和6年7月20日（土） ピュアリティまきび 1.講　演:「心理的安全性に向けたかかわり方」 講　師：杉並区立済美養護学校 主任教諭　川上　康則　氏 同日にテーマ別の情報交換会	令和6年6月18日（火） 令和7年2月27日（木）

九州・沖縄	開催日 会　場 内　容	令和6年9月14日（土） リファレンス駅東ビル4F（ 会議室Q ） 1.講　演：「臨床判断能力の評価と実践報告」 講　師：聖路加国際大学　大学院 准教授 三浦 友理子 氏 2.グループワーク	**第1回** ①ブロック会議年間計画について ②令和6年度研修会について ③情報交換 **第2回** ①令和6年度研修会について ②情報交換 **第3回** ①令和6年度研修会アンケート結果について ②令和7年度研修会テーマ(案)について ③情報交換 **第4回** ①令和6年度活動報告 ②令和7年度活動計画 ③令和7年度研修会について ④情報交換

4. 全国都道府県代表者会

開 催 日　令和6年11月20日（水）
会　　場　アルカディア市ヶ谷（私学会館）
テ ー マ　「課題解決へ、つながりつながる看護教育」
参 加 者　ブロック県代表者　36名
内　　容　1.協議会からの報告
「2023（R5）年度　看護師等養成所の管理・運営に関する調査　速報」
日本看護学校協議会 副会長　戸田　悦子

2.「福島県における看護基礎教育機関との連携」
報告者　ポラリス保健看護学院　副学院長　渡辺 美保子 氏

3.「千葉県の看護学校　問題解決に向けた取り組み」
報告者　勤医会東葛看護専門学校 副校長　山田 かおる 氏

4.「看護学校における県と協力した処遇改善への取り組み」
報告者　共立高等看護学院　副学院長　河西 光子 氏

5. グループワーク（情報交換）

5. 会　議

1) 総　会

開 催 日	令和6年5月27日（月）
会　　場	東京　アルカディア市ヶ谷（私学会館）
内　　容	第1号議案　令和5年度　事業報告 第2号議案　令和5年度　会計決算及び監査報告 第3号議案　令和6年度　事業計画（案） 第4号議案　令和6年度　会計予算（案）

※　総会終了後、アルカディア市ヶ谷（私学会館）において懇親会を実施

2) 理事会

回数	開催日	会場・方法	備　考
1	4月18日（木）	当協議会事務局・オンライン	・令和5年度事業報告、会計決算及び監査報告 ・令和6年度事業計画(案)、会計予算(案)
2	7月12日（金）	当協議会事務局・オンライン	・総会、学校長会のまとめ ・会務分担等について ・今年度の年間計画の確認
3	11月20日（水）	アルカディア市ヶ谷(私学会館)・	・令和6年度事業及び会計中間報告 ・各委員会、調査進捗状況 ・次年度の事業計画について

3) 常任理事会

回数	開催日	会場・方法	備　考
1	令和7年 3月19日（水）	当協議会事務局・オンライン	・令和6年度事業・決算中間報告 ・令和7年度の事業計画（案）

4) 一般社団法人日本看護学校協議会あり方検討会（常設）

回数	開催日	会場・方法	内　　容
1	5月 7日（火）	当協議会事務局・オンライン	1. 中堅期看護教員スキルアップ研修会の途中報告 2. 令和6年度総会について 3. 学校長会について
2	7月 1日（月）	当協議会事務局・オンライン	1. 令和6年度 学校長会について 2.「第3回 私の学校自慢」について 3. 新任期看護教員研修会について 4. 中堅期看護教員スキルアップ研修会について 5. 教務主任養成講習会について 6. 特別研究事業の進捗状況について 7. 第36回学会進捗状況について 8. 事務局DX進捗状況 9. 第3回理事会について 10. 令和6年度 取り組むべき課題 11. 第37回学会開催場所について 12. 全国都道府県代表者会の内容について

3	8月 7日（水）	当協議会事務局・オンライン	1. 第36回学会報告、第37回学会の進捗状況について 2. 教務主任養成講習会の実施状況について 3. 実態調査の進捗状況について 4. 特別研究の進捗状況について 5. 第1回専任教員交流会について 6. 自民党看護問題小委員会への要望書について 7. 看護師等養成所におけるハラスメント防止に向けた研修会について 8. 今後の学会運営について
4	9月3日（火）	当協議会事務局・オンライン	1. 新任期看護教員研修会について 2. 専任教員交流会について 3. 教務主任養成講習会について 4. 看護師等養成所の管理・運営等に関する実態調査について 5. 看護師等養成所におけるハラスメント防止に向けた研修会について 6. 看護師等養成所のDX化推進教育研修会について 7. 事務担当者会について
5	10月8日（火）	当協議会事務局・オンライン	1. 第1回専任教員交流会アンケート結果 2. 看護師等養成所の管理・運営等に関する実態調査の進捗状況について 3. 教務主任養成講習会について 4. 特別研究の進捗状況について 5. 中堅期看護教員スキルアップ研修会中間発表について 6. 看護師等養成所におけるハラスメント防止に向けた研修会について 7. 事務担当者会について 8. 看護師等養成所のDX化推進教育研修会について
6	11月6日（水）	当協議会事務局・オンライン	1. 令和6年度事業及び会計中間報告について 2. 第36回、第37回学会について 3. 新任期看護教員研修会(1回目)について 4. 中堅期看護教員スキルアップ研修会について 5. 事務担当者会について 6. 看護教員インターンシップ事業について 7. 看護師等養成所におけるハラスメント防止に向けた研修会について 8. 教務主任養成講習会について 9. 令和6年度看護師等養成所の管理・運営等に関する実態調査について 10. 厚生労働省特別研究「看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究」について

			11. 総会後の懇親会の廃止について 12. 全国都道府県代表者会について 13. 看護師等養成所のDX化推進教育研修会について 14. 副学校長・教務主任会について 15. 新任期看護教員研修会(2回目)について 16. 学校教育法の改正について 17. 学会への助成金(200万)の増額について 18. 令和7年度会議、日程及び会場(案)について 19. 令和7年度教務主任養成講習会開催要項について 20. 第38回学会（高知県）について 21. 事務局のDX化について
7	2月3日（月）	当協議会事務局・オンライン	1. 全国都道府県代表者会について 2. 看護師等養成所のDX化推進教育研修会について 3. 副学校長・教務主任会について 4. 新任期看護教員研修会(2回目)について 5. 教務主任養成講習会について 6. 看護教員インターンシップ事業について 7. 第37回（福岡県）学会進捗状況について 8. 厚生労働省特別研究「看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究」について 9. 要望書の提出について 10. manaableの導入について 11. 令和6年度および今後の事業について 12. 国家試験問題検討委員会について 13. 第2回専任教員交流会について 14. 第1回常任理事会について 15. 令和7年度学校長会・副学校長会について 16. 令和6年度事業報告について 17. 各事業計画に基づいた報告 18. 令和7年度について 19. 事業計画（案）について 20. 役員改選（案）について 21. 会務分担（案）について
8	3月3日（月）	当協議会事務局・オンライン	1. 令和6年度中堅期看護教員スキルアップ研修会について 2. 第2回専任教員交流会終了アンケート結果 3. 厚生労働省調査研究等の進捗状況について 4. 教務主任養成講習会運営会議報告 5. 令和6年度事業のまとめ 6. 令和7年度事業計画 7. 学校長会プログラムについて 8. 常任理事会に向けて

6. 委員会

1）常設の委員会

委員会名	開催日	会場・方法	内　　容
事務担当者委員会	8月26日（月）	オンライン	1.令和 6 年度事務担当者会について
広報委員会	7月 3 日（水） 11 月 5 日（火） 3月26日（水）	オンライン オンライン オンライン	1.ホームページの内容について 1.「Google アナリティクス(GA4)の結果」の共有 2.ホームページ内容の検討 1.今年度の総括について 2.次年度への方向性について
ブロック活動委員会	7月19日（金） 3月13日（木）	オンライン オンライン	1.令和6年度ブロック活動について 2.ブロック活動助成金について 1.2025年度学会周知 2.manaable導入について 3.2024年度ブロック活動のまとめ 4.2025年度ブロック活動予定 5.現在のブロック入会状況 6.その他
学会企画委員会	7月29日（月） 10月29日（火） 12月12日（木） 2 月26日（水）	オンライン オンライン オンライン オンライン	1.第37回日本看護学校協議会学会の進捗状況 2.第36回日本看護学校協議会学会の準備段階から開催当日までの流れ 3.第37回学会に向けてのスケジュール確認と役割分担 1.学会運営に関する覚え書きについて 1.規定・内規・組織図の策定について 1.規定・内規・組織図の策定について
国家試験・資格試験対策委員会	令和7年 1月30日（木） 2月19日（水） 2月20日（木）	オンライン	1.令和 6 年度保健師・助産師・看護師国家試験問題の採点除外対象問題の事前打ち合わせ 1.令和 6 年度保健師・助産師・看護師国家試験問題の採点除外対象問題の検討について

教務主任養成講習会運営委員会	10 月 10 日（木） 令和７年 ２ 月 ７ 日（金）	オンライン オンライン	1. 令和６年度実施中間報告 2. 令和７年度予定（案） 3. 令和６年度　修了式（案） 1. 令和６年度実施報告 1)総括、受講生の状況および単位修得状況 2)講習会の企画運営 3)教育内容 4)講師・指導協力者の意見 5)今後の課題 2. 令和６年度修了認定について 3. 令和７年度「日本看護学校協議会教務主任養成講習会」選考 4. その他 1）令和６年度修了式 2）教務主任養成講習会規程改訂について
政策委員会	６ 月 17 日（月） 10 月 ３ 日（木） 11 月 14 日（木）	オンライン オンライン オンライン	1.　令和６年度予算要望について 1）DX 要望書 2）ハラスメント要望書 3）専任教員養成講習会継続の要望書 1. 12 月末の要望書提出にむけて―自民党看護問題小員会への要望書 全体を鑑みて― 1. 予算獲得について.

2）特別委員会

委員会名	開催日	会場・方法	内　　容
研究倫理審査委員会	７月 17 日（水） ８月 28 日（水）	オンライン オンライン	1. 令和６年度「看護師等養成所の管理・運営等に関する実態調査」審査 1. 令和６年度「厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進事業）」審査

厚生労働行政推進調査事業「看護教員の継続教育に対するニーズ把握のための研究」	４月 19 日（金） ５月 10 日（金） ５月 17 日（金） ５月 24 日（金） ６月 ７ 日（金） ６月 17 日（月）	当協議会事務局 オンライン オンライン オンライン オンライン オンライン	1.　研究報告書の作成 1.　今年度の研究計画について 1.　組織診断サーベイについて 1.　ヒアリングについて 2.　教務主任養成講習会の受講支援について 1.　日本能率協会との打ち合わせ 1.　ヒアリング（案）について

	7月 1 日（月）	オンライン	1. 日本能率協会の契約内容について 2. 第2回組織診断（サーベイ）の結果報告・意見交換会について
	7月31日（水）	オンライン	1. ヒアリング内容の確認について 2. 今後のスケジュールについて
	8月27日（火）	オンライン	1. 研究倫理審査について 2. ヒアリング調査について
	9月18日（水）	オンライン	1. ヒアリング調査について
	10月 15日（火）	オンライン	1. 副学校長・教務主任会内容について 2. ヒアリング調査結果報告
	10月 31日（木）	オンライン	1. 副学校長・教務主任会について
	11月27日（水）	オンライン	1. 調査報告概要について
	12月 3 日（火）	オンライン	1. 最終打合せについて
	12月25日（水）	オンライン	1. 調査報告概要について
	1月27日（月）	オンライン	1. 研究の背景等と考察（案）について
	2月10日（月）	オンライン	1. 考察について
	2月26日（水）	オンライン	1. 考察について
	3月 5 日（水）	オンライン	1. 調査結果報告書（総合報告書）について
	3月14日（金）	オンライン	1. 調査結果報告書（総合報告書）について
	3月17日（月）	オンライン	1. 調査結果報告書について
	3月24日（月）	オンライン	1. 調査結果報告書について
	3月26日（水）	オンライン	1. 調査結果報告書について

7. 部会

1）統合カリキュラム教育実施施設部会（担当校：北里大学保健衛生専門学院）

開催日　令和6年8月 7日（水）

方　法　オンライン

内　容　1.　各校教育実施状況の情報交換　課題の検討

2.　講演会

テーマ：「電子媒体の導入が学習効果に与える影響と配慮すべき点」

講　師：放送大学客員准教授　倉澤　昭　氏

2）准看護師養成教育実施施設部会　（担当校：甲府看護専門学校）

開催日　令和6年9月14日（土）

会　場　甲府看護専門学校

内　容　講　演：「ハワイ州における准看護師制度とその運用」

講　師：ハワイ大学がんセンター　岡田 悠偉人 氏

8. 広報活動

1）日看学協ニュース

会議終了後に順次ホームページ項目に掲載

2）一般社団法人日本看護学校協議会雑誌

会報特集号

・令和元年～令和6年度内容をホームページに掲載予定としていたが、未実施

学会特集号

・第32回～第36回内容をホームページに掲載予定としていたが、未実施

9. 会員（正会員・特別会員・賛助会員）について

正会員445校（入会校5校、退会校9校）、特別会員1名、賛助会員24社

第2号議案 令和6年度会計決算及び監査報告

貸　借　対　照　表

令和7年3月31日現在

一般社団法人日本看護学校協議会　　（単位：円）

科　　目	当　年　度	前　年　度	増　　減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金	125,481	125,481	0
預金	50,288,510	43,102,626	7,185,884
未収金	10,980,000	21,980,000	△ 11,000,000
貯蔵品	8,897	9,327	△ 430
前払費用	3,017,660	386,090	2,631,570
仮払金	54,802	1,108,355	△ 1,053,553
流動資産合計	64,475,350	66,711,879	△ 2,236,529
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
什器備品	181,500	306,040	△ 124,540
基本財産合計	181,500	306,040	△ 124,540
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	2,201,204	1,800,282	400,922
特定資産合計	2,201,204	1,800,282	400,922
(3) その他固定資産			
敷金	2,082,500	2,082,500	0
その他固定資産合計	2,082,500	2,082,500	0
固定資産合計	4,465,204	4,188,822	276,382
資産合計	68,940,554	70,900,701	△ 1,960,147
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
未払費用	0	4,859,630	△ 4,859,630
前受金	1,050,000	1,295,000	△ 245,000
預り金	126,664	302,274	△ 175,610
流動負債合計	1,176,664	6,456,904	△ 5,280,240
2. 固定負債			
退職給与引当金	2,200,000	1,800,000	400,000
固定負債合計	2,200,000	1,800,000	400,000
負債合計	3,376,664	8,256,904	△ 4,880,240
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	65,563,890	62,643,797	2,920,093
（うち基本財産への充当額）	(0)	(0)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(2,200,000)	(1,800,000)	(400,000)
正味財産合計	65,563,890	62,643,797	2,920,093
負債及び正味財産合計	68,940,554	70,900,701	△ 1,960,147

正味財産増減計算書

自 令和6年4月1日　至 令和7年3月31日

一般社団法人日本看護学校協議会　（単位：円）

科　　目	当　年　度	前　年　度	増　　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
①受取会費			
受取正会員費	22,250,000	22,400,000	△ 150,000
受取特別会員費	10,000	5,000	5,000
受取賛助会員費	1,200,000	1,100,000	100,000
②事業収益			
研修会等参加負担金収入	12,950,000	13,436,181	△ 486,181
傷害保険集金事務費収入	4,000,000	2,000,000	2,000,000
広告費収入	172,000	357,000	△ 185,000
共同事業費	1,188,000	1,188,000	0
専任教員養成提携事業費	1,144,000	1,352,000	△ 208,000
受講料収入	11,120,000	12,890,000	△ 1,770,000
③受取補助金等			
補助金 教務主任養成講習会事業委託金	10,980,000	10,980,000	0
補助金 厚生労働省委託事業	5,761,000	16,112,000	△ 10,351,000
④義援金収入	0	3,287,028	△ 3,287,028
⑤雑収益			
受取利息	1,102	12	1,090
雑収益	202,000	647,924	△ 445,924
経常収益計	70,978,102	85,755,145	△ 14,777,043
(2)経常費用			
①事業費			
人件費	3,421,025	3,301,113	119,912
講師等謝金	7,755,030	9,846,710	△ 2,091,680
旅費交通費等	4,397,133	7,186,765	△ 2,789,632
通信運搬費	611,642	872,698	△ 261,056
賃借料	4,299,125	3,100,256	1,198,869
備品消耗器材費	141,062	961,350	△ 820,288
印刷製本費	309,207	1,086,655	△ 777,448
研究助成費	27,112	263,840	△ 236,728
会議費	452,018	552,677	△ 100,659
雑誌等出版費	0	0	0
委託料	12,310,416	20,085,157	△ 7,774,741
義援金支出	0	3,285,048	△ 3,285,048
学会助成費	2,000,000	2,000,000	0
部会助成費	280,000	285,000	△ 5,000
雑費	0	0	0
事業費計	36,003,770	52,827,269	△ 16,823,499
②管理費			
人件費	14,002,263	14,380,732	△ 378,469
退職給付費用	400,000	400,000	0
旅費交通費	2,485,531	2,829,350	△ 343,819
通信運搬費	1,203,257	804,009	399,248
地代家賃・賃借料	8,507,442	8,000,906	506,536
水道光熱費	405,851	407,619	△ 1,768
備品消耗器材費	315,546	434,039	△ 118,493
印刷製本費	15,950	219,900	△ 203,950
会議費	126,800	124,925	1,875
支払手数料	2,054,800	2,711,001	△ 656,201
租税公課	1,551,760	613,100	938,660
雑費	985,039	450,891	534,148
予備費	0	0	0
管理費計	32,054,239	31,376,472	677,767
経常費用計	68,058,009	84,203,741	△ 16,145,732
当期経常増減額	2,920,093	1,551,404	1,368,689
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
特定預金取崩	0	0	0
(2)経常外費用			
退職金支出	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,920,093	1,551,404	1,368,689
一般正味財産期首残高	62,643,797	61,092,393	1,551,404
一般正味財産期末残高	65,563,890	62,643,797	2,920,093
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
Ⅲ　正味財産期末残高	65,563,890	62,643,797	2,920,093

財 産 目 録

令和7年3月31日現在

（単位：円）

資産の部

1．一般会計		
現金出納帳（現金）	125,481	
三井住友銀行普通預金	16,968,232	
三井住友銀行普通預金 教務口	33,270,610	
三菱UFJ銀行普通預金 研究調査口	49,668	
三井住友銀行普通預金 義援金口	0	50,413,991
2．特定預金		
三井住友銀行普通預金	2,201,204	2,201,204
3．未収金		
補助金/令和6年度　看護教員教務主任養成講習会事業	10,980,000	10,980,000
4．前払費用		
研修管理業務システム（令和7年度分）委託料	2,772,000	
従業員通勤手当	245,660	3,017,660
5．仮払金		
ブロック活動費/未精算分 他	54,802	54,802
6．貯蔵品		
切手	8,897	8,897
7．什器備品		
プロジェクター	1	
LAN設備	181,499	181,500
8．敷金		
事務所敷金	2,082,500	2,082,500
資産の部　計		68,940,554

負債の部

1．前受金		
中堅期看護教員スキルアップ研修会参加費（令和7年度実施予定）	1,050,000	1,050,000
2．預り金		
源泉所得税	126,664	126,664
3．退職給与引当金		
退職給与引当金	2,200,000	2,200,000
負債の部　計		3,376,664
正味財産合計　（資産の部－負債の部）		65,563,890

令和 6 年度　総括表

自　令和6年4月1日　　至　令和7年3月31日

（単位：円）

科　目	本年度予算額(A)	本年度実績額(B)	差引増減△額(A-B)
収入の部			
1.　会費収入	23,360,000	23,460,000	△ 100,000
2.　事業収入	56,719,000	47,315,000	9,404,000
3.　義援金収入	0	0	0
4.　雑収入	100,000	203,102	△ 103,102
収入合計	80,179,000	70,978,102	9,200,898
支出の部			
1.　管理費	31,120,000	29,117,440	2,002,560
2.　事業費	37,100,000	33,723,770	3,376,230
3.　義援金支出	0	0	0
4.　学会助成費	2,000,000	2,000,000	0
5.　部会助成費	285,000	280,000	5,000
6.　租税公課	1,600,000	1,551,760	48,240
7.　特定預金支出	400,000	400,000	0
8.　雑費	500,000	985,039	△ 485,039
支出合計	73,005,000	68,058,009	4,946,991
収支差額	7,174,000	2,920,093	4,253,907
前年度繰越金	61,523,797	61,523,797	
次年度繰越金	68,697,797	64,443,890	

令 和 6 年 度 一 般 会 計

自　令和6年4月1日　　至　令和7年3月31日

（単位：円）

科　目	本年度予算額(A)	本年度実績額(B)	差引増減△額(A-B)	備　考
収入の部				
1. 会費収入	23,360,000	23,460,000	△ 100,000	
1)正会員費	22,150,000	22,250,000	△ 100,000	予算：443校 実績：445校
2)特別会員費	10,000	10,000	0	予算：2名 実績：2名
3)賛助会員費	1,200,000	1,200,000	0	予算：24社 実績：24社
2. 事業収入	56,719,000	47,315,000	9,404,000	
1)研修会等参加負担金	23,940,000	24,070,000	△ 130,000	予算： 研修会等参加費：12,780,000円 教務主任養成講習会受講料：11,160,000円 実績： 研修会等参加費：12,950,000円 教務主任養成講習会受講料：11,120,000円
2)傷害保険集金事務費	14,000,000	4,000,000	10,000,000	
3)広告費	330,000	172,000	158,000	
4)共同事業費	1,188,000	1,188,000	0	
5)専任教員養成提携事業費	1,500,000	1,144,000	356,000	
6)補助金等	15,761,000	16,741,000	△ 980,000	予算： 教務主任養成講習会：10,000,000円 科研費補助金：5,761,000円 実績： 教務主任養成講習会：10,980,000円 科研費補助金：5,761,000円
3. 義援金収入	0	0	0	
4. 雑収入	100,000	203,102	△ 103,102	
合　計	80,179,000	70,978,102	9,200,898	
支出の部				
1. 管理費	31,120,000	29,117,440	2,002,560	
2. 事業費	37,100,000	33,723,770	3,376,230	
3. 義援金支出	0	0	0	
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0	
5. 部会助成費	285,000	280,000	5,000	
6. 租税公課	1,600,000	1,551,760	48,240	
7. 特定預金支出	400,000	400,000	0	
8. 雑費	500,000	985,039	△ 485,039	令和5年度国庫補助金返戻分：810,000円含む
合　計	73,005,000	68,058,009	4,946,991	
収支差額	7,174,000	2,920,093	4,253,907	
前年度繰越金	61,523,797	61,523,797		
次年度繰越金	68,697,797	64,443,890		

一般会計　支出内訳

（単位：円）

科　目	本年度予算額(A)	本年度実績額(B)	差引増減△額(A-B)	備　考
1. 管理費	31,120,000	29,117,440	2,002,560	
人件費	14,400,000	14,002,263	397,737	給与、社会保険料
旅費交通費	2,500,000	2,485,531	14,469	通勤費、理事会・常任理事会等
通信運搬費	800,000	1,203,257	△ 403,257	TEL、切手他、振込手数料
地代家賃・賃借料	9,120,000	8,507,442	612,558	リース代 含む
水道光熱費	450,000	405,851	44,149	
備品消耗器材費	450,000	315,546	134,454	
印刷製本費	250,000	15,950	234,050	コピー、封筒
会議費	150,000	126,800	23,200	
支払手数料	3,000,000	2,054,800	945,200	顧問料
2. 事業費	37,100,000	33,723,770	3,376,230	
人件費	3,300,000	3,421,025	△ 121,025	
講師等謝金	10,000,000	7,755,030	2,244,970	
旅費交通費等 ※日当含む	6,000,000	4,397,133	1,602,867	
通信運搬費	600,000	611,642	△ 11,642	
賃借料	3,300,000	4,299,125	△ 999,125	研修会会場費、教務主任養成講習会会場費(横浜・大阪)
備品消耗器材費	200,000	141,062	58,938	科研費備品代含む
印刷製本費	400,000	309,207	90,793	
研究助成費	300,000	27,112	272,888	
会議費	500,000	452,018	47,982	
雑誌等出版費	500,000	0	500,000	
委託費	12,000,000	12,310,416	△ 310,416	研修会配信料、教務主任eラーニング運営委託料
3. 義援金支出	0	0	0	
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0	
5. 部会助成費	285,000	280,000	5,000	
6. 租税公課	1,600,000	1,551,760	48,240	
7. 特定預金支出	400,000	400,000	0	
8. 雑費	500,000	985,039	△ 485,039	図書購入費、慶弔費
合　計	73,005,000	68,058,009	4,946,991	

令 和 6年 度 特 定 預 金

自　令和6年4月1日　　至　令和7年3月31日

1. 収入の部　　（単位:円）

科　目	本年度予算額(A)	本年度実績額(B)	差引増減△額(A-B)	備　考
1. 預金額	400,000	400,000	0	
2. その他	12	922	△ 910	預金利息
前年度繰越金	1,800,282	1,800,282		
次年度繰越金	2,200,294	2,201,204		

一般社団法人日本看護学校協議会
会長　水方　智子　様

監　査　報　告　書

一般社団法人日本看護学校協議会定款第34条の規定により、監査の結果を下記の通り報告致します。

記

監事は、理事会等の重要な会議に出席する等の方法により、また期末では帳簿閲覧等の方法により、令和6年度の一般社団法人日本看護学校協議会の運営と事業に伴う会計について監査を実施した。

監査の結果、一般社団法人日本看護学校協議会の運営については、令和6年度の事業計画に沿って事業が実施されており、結果は看護基礎教育の充実と質の向上・発展に寄与する活動であると評価される。
会計については、収入、支出ともに証票が整理され、現金出納簿、預金通帳について照合等監査したところ、収支決算書に相違ないことを認める。

令和7年　4月25日

一般社団法人日本看護学校協議会

監事 荒川真知子

監事 佐藤仁作

監事 高瀬 徹

第３号議案　令和７年度 事業計画（案）

令和７年度事業方針及び重点事業方針

〇事業方針

令和４～６年度の新中期目標を以下の通りに示す。
１．看護職養成施設の役割の拡大を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。
２．看護教員の質向上、確保・定着に向け、看護教員の継続教育システムをより充実させる。
３．当協議会の活動を広報し、組織率をあげる。
４．会員校のニーズを把握しつつ、これからの社会が求める看護職のあり方について看護基礎教育を担う団体として提言を行う。

※令和４～６年度の評価
１．令和４年（看護師２年課程は令和５年）入学生から導入された第５次指定規則改定により、「地域・在宅看護論」が新設され臨地実習の場も緩和された。教育課程に「地域」を取り入れた教育実践を紹介するなど、「地域」とともにある学校づくりの情報発信を行った。
２．令和５年度から看護教員インターンシップ（1 日看護教員体験）、令和４年度から中堅期看護教員スキルアップ研修会を開始するとともに、令和６年度から新任教員研修「授業づくり」をより実践的な内容に変更した。これにより、看護教員の確保・定着・質向上に向けた継続教育のシステムの充実を図った。
３.令和４年度からホームページを全面更新し、研修会などを非会員校にも公開することで組織率を維持できた。
４．夏に自民党看護問題小委員会、冬に厚生労働省宛てに、継続して要望書を提出した。

〇急激な社会変化に伴い令和７年度からの新中期目標を以下の通りに示す。
１．看護職養成施設の役割の拡大を図り、地域とともにある持続可能な学校づくりを推進する。
２．看護教員の確保・定着・質向上に向け、経験年数や役職に応じた看護教員の継続教育システムを構築する。
３．当協議会の会員校サービスを充実させ、活動内容を広報して組織率を維持する。
４．社会のニーズを把握しつつ、急速に変化する社会が求める看護職のあり方について看護基礎教育を担う団体として提言を行う。

令和７年度重点事業方針（案）を以下の通り提案する。
１．看護職養成施設の役割の拡大を図り、地域とともにある持続可能な学校運営を推進する。
令和４年（看護師２年課程は令和５年）入学生から導入された第５次指定規則改定により、「地域・在宅看護論」が新設され臨地実習の場も緩和された。持続可能な地域とともにある学校づくりをより発展させる。また、各学校の特色ある取り組みを発表・共有できる仕組みを作ることで、看護師等養成所全体のモチベーションアップをはかる。とともに、学校自己評価・自己点検を発展させた形で地域毎の「学校間ピアレビュー」を継続する。当協議会内に「第３者評価委員会」の構築準備を始める。

２．看護教員の確保・定着・質向上に向け、経験年数や役職に応じた看護教員の継続教育のシステムを構築する。
既存の看護教員の継続教育の内容を見直し、より「実践的な内容」に発展させる。Step1：専任教員養成講習会（環太平洋大学との連携）、Step2 新任期教員対象「授業づくり研修会」、Step3：中堅期教員対象「中堅期看護教員スキルアップ研修会」、Step4：熟達期教員対象「教務主任養成講習会」に加え、Step5：教務主任期・管理期対象「管理期対象研修会」と、看護教員が経験や役割に応じて必要な内容を学ぶことのできる仕組みを創る。さらに、看護職員が看護学校で看護基礎教育を体験出来る「看護教員インターンシップ（1 日看護教員体験）も継続実施する。

３．会員校サービスを向上させ、組織率を維持する。

研修会等のお知らせを学校毎にメール発信していたものを、ホームページを用いて周知をはかる。それにより、協議会活動や研修会の申し込み等、看護教員個人でも申し込みができるようにする。また。令和６年度の会員は445校であり、組織率50%には届いていない。18歳人口の減少に伴い、今後看護師等養成所数も急速な減少が予測される。社会のニーズに応じた研修会や講習会等を実施するとともに、研修会などには非会員校も参加可能とし入会につなげる。

４．急速に変化する社会のニーズを把握しつつ、看護基礎教育を担う団体として提言を行う。

厚生労働省など国の事業に協力するとともに、日本医師会・日本看護協会等とも連携して事業をすすめる中で、社会のニーズを把握し、研修会や情報交換会等での要望や意見を関係団体に提案する。また、看護師等養成所の管理運営及び教育等に関する調査研究等の結果を提言し公表することで看護師等養成所の発展向上に寄与する。

○　令和７年度　具体的活動

	具体的活動
1．地域とともにある持続可能な学校づくりを推進	1）持続可能な学校経営・管理に関する支援 ・学校長会、副学校長・教務主任会、事務担当者会等の開催 ・全国都道府県代表者会、ブロック県代表者会議等の開催 ・ハラスメント撲滅に向け研修会を実施 ・ＤＸ推進に関する研修会の継続実施　等 2)各学校の取り組み紹介 ・第４回目「私の学校自慢」を募集し、表彰式を学会で実施するとともに、結果をホームページにも掲載。さらに、各校の取り組みを共有できるような「実践報告会」の機会を創る。 3）学校自己点検・自己評価の実施率向上を目指した支援 ・都道府県毎の「学校間ピアレビュー」を継続推進、４年目のモデル地区として福島県看護学校協議会に委託 4）第３者評価委員会 ・NPO法人職業教育評価機構とともに、設立準備の開始 5）研究活動の推進 ・第37回（一社）日本看護学校協議会学会を開催（福岡県） ・研究活動に対する助成

2. 看護教員の確保・定着・質向上に向け、経験年数や役職に応じた看護教員の継続教育システムを構築する	1)　看護教員インターンシップ（1 日看護教員体験事業）の継続実施 ・看護教員に興味のある看護職を募り、近くの学校で体験出来るしくみの発展 2)　Step１：環太平洋大学との提携による専任教員養成を継続支援 3)　Step２：新任期教員対象「授業デザインとリフレクション」研修会を実施 ・自分が担当する授業を持ち寄り、計画（授業デザイン）・実施（模擬授業）・評価（集団によるリフレクション）を実施。夏に東京、春に大阪で対面実施。 4)　Step３：中堅期看護教員スキルアップ研修会の継続実施。 ・「学校経営に関心を持ち、自らが視野を広げて役割を理解し、組織力向上に貢献できる人材育成」を目的に、全 5 日間をオンラインと対面を組み合わせながら実施。他校交流も継続実施する。 5)　Step４：教務主任養成講習会の発展 ・東京会場（横浜実践看護専門学校）のみで実施し、2 年次の「リーダー論演習」の内容を段階的に変更し、令和 8 年度から改正実施にむけ検討する。 6) Step５：管理期対象研修会の企画・検討。 7) 専任教員の交流会を継続実施 ・経験年数や専門領域毎に看護教員と交流し看護教員同士の繋がりをつくる。
3. 会員校サービスの向上と組織率の維持	1) 会員校サービスの充実 ・研修会の申し込み等、学校単位でも個人単位でも申し込めるような仕組みの導入。 2) ホームページの活用 ・協議会の活動を広報し、ホームページ上での情報発信の充実へ。 3)　各ブロック活動の充実 ・ブロック毎の研修会で、当協議会を紹介し入会を案内。 ・非会員校へのアプローチを行い当協議会の組織率を維持する。 ・協議会の活動実態を広く広報するために、非会員校への案内も継続。
４．看護基礎教育を担う団体としての提言	1) 教育課程毎の課題についての検討 〇各ブロック研修会の運営 〇部会の運営（統合カリキュラム、准看護師課程） 2) 関係省庁・関係団体との協力体制強化 ・関係省庁への要望・陳情活動 ・検討会等への委員の派遣 ・関係団体との協力体制の強化　等 3) 国の施策に貢献 4)　看護師等養成所の学校運営に関する必要な調査を適宜実施 ・令和 7 年(2025 年)度「管理・運営に関する実態調査」を実施 7) (一社) 日本看護学校協議会共済会との連携継続 ・教育現場のニーズを把握し、共済会と連携する。 8)　賛助会員との連携継続 ・雑誌投稿、商品開発など 9)　対外的に積極的な情報発信 ・必要時、関係省庁への要望･陳情等に関するプレスリリースを、厚生労働記者会及び厚生日比谷クラブに向け発信

○　事業内容

1.　学術・教育

1）教育研修会活動

令和７年度　学術・教育活動部会

【ねらい】

一般社団法人日本看護学校協議会の事業の中核である「看護教育の質向上に向けての継続的・計画的な活動の強化」において、具体的な実施を担う役割がある。しかし、18 歳人口の減少やコロナ禍後に伴う急激な変化の中で、学生確保が非常に厳しく看護学校の存続そのものが危ぶまれる時代になった。そのような中で、看護師等養成所のハラスメント報道も沈静化の気配はなく、これは学校運営の致命傷にもなりかねない。よって、令和 7 年度は「持続可能な学校運営」を目指し、看護教員の経験に応じた研修会に加え、「ハラスメント対応」「ＤＸ推進」の研修会を継続する。

なお、教育委員会の機能をいくつかに分散する中で、迅速な意思決定が測れるようにする。

【具体的活動内容】

１．教育研修会の企画・運営・まとめ
　１）看護教員の経験に応じた研修会
　　・新任期看護教員及び看護養成講習会未受講者を対象とした教育研修会（年２回）
　　・中堅期看護教員スキルアップ研修会
　２）看護師等養成所の現状に応じた研修会
　　・ハラスメント対応研修会の実施
　　・ＤＸ推進に関する教育研修会
２．学会の企画・運営
３．研修会の企画・運営
　　・学校長会、事務担当者会、副学校長・教務主任会
４．教務主任養成講習会の企画・運営

⑴ 新任期看護教員研修会

開催日　①東京：令和７年８月 12 日（火）・13 日（水）、15 日（金）・16 日（土）
　　②大阪：令和８年３月 25 日（水）・26 日（木）、28 日（土）・29 日（日）
方　法　対面のみ
　　東京：医療創生大学　柏キャンパス　国際看護学部
　　大阪：パナソニック健康保険組合立　松下看護専門学校
対象者　新任期看護教員（教員経験３年未満）・看護教員養成講習会未受講者
内　容　講　演「教育の本質を考える・授業デザイン」
　　演　習　マイクロティーチング・集団による授業リフレクション
　　講　師　講　演　　目黒　悟　氏
　　演　習　　①東京：目黒悟　他
　　②大阪：目黒悟　他

⑵ 中堅期看護教員スキルアップ研修会

開催日：令和７年４月５日（土）、４月 26 日（土）、４月 27 日（日）、９月 13 日（土）、
　　令和８年２月 21 日（土）　全５日間
方　法：オンライン：令和７年４月５日（土）、４月 26 日（土）、４月 27 日（日）、９月 13 日（土）
　　会　　場：令和８年２月 21 日（土）アルカディア市ヶ谷（私学会館）
対象者：看護教員として５年以上の経験のあるもの

内　容：講義及びグループワーク　令和７年４月５日（土）
講 演１：中堅教員に必要な能力・看護や医療の動向
講 師１：会長　水方　智子
講 演２：「経験学習と人材育成」
講 師２：青山学院大学経営学部 経営学科　教授　松尾　睦　氏

講義及びグループワーク　令和７年４月 26 日（土）、４月 27 日（日）
講 演：看護学校におけるリーダーシップ
演 習：学校組織でのリーダーシップ上の課題は何か　演習
講 師：同志社女子大学教職員課程センター特任教授・京都教育大学大学院連合教職員実践研究科　教授　水本　徳明　氏

自校での取り組み　令和７年５月～８月

演　習：自校での取り組み：自己のリーダー行動計画実施期間
自校での取り組みの報告会　　令和７年９月 13 日（土）

演　習：中間報告会、４月の課題を踏まえて自己の実践を報告する
他校でのフィールドワーク　　令和７年９月～令和８年２月（1～3 日間）

演　習：他校に出向き、リーダーシップ上の課題解決に向けた示唆を得る。
まとめ・グループ発表・講評　　令和８年２月 21 日（土）（対面）
演　習：グループ発表、まとめ講義・講評

(3) ハラスメント対応教育研修会
開催日　　令和７年 10 月 10 日（金）
会　場　　オンライン
方　法　　講　演 「ハラスメント対応に関する内容（詳細未定）」
講　師　　未定

(4) 看護師養成所の DX 化推進教育研修会
開催日　　令和７年 10 月 29 日（水）
方　法　　オンライン
内　容　　ＤＸを活用した業務改善（仮）
講　師　　未定

3) 専任教員交流会
第１回 令和７年８月 22 日（金）、第２回 令和８年２月 27 日（金）オンラインで開催予定

4) 研究等奨励事業　　募集　令和７年 ９月

5) 第 37 回学会
開催日　　令和７年 ８月７日（木）・８日（金）
会　場　　九州大学医学部 百年講堂
テーマ　　「地域・在宅で活躍する看護師、それを支える看護教育」
学会長　　社会医療法人原土井病院　理事長　原　祐一　氏

8月7日（木）

基調講演　:「将来の地域における看護学校のあり方」
講　師　　:公益社団法人日本医師会　名誉会長　横倉　義武　氏

特別講演１:「時代の要請に応える看護職育成への期待」
講　師　　:厚生労働省医政局看護課　課長　習田由美子氏

学生企画　:「地域・在宅看護論実習からの学び～学生による看護の未来へのメッセージ」

学会長講演:「地域・在宅で活躍する看護師、それを支える看護教育」
原土井病院　理事長　原　祐一氏

シンポジウム１「地域の人々の命・暮らしを護るとは～それぞれの立場からの発信～」
シンポジスト:伊藤　大樹氏　（あおばクリニック 院長）
川端貴美子氏　（福岡県歯科医師会 専務理事）
松嶋　秀明氏　（株）HERO代表取締役はろうず訪問看護ステーション　管理者
小栗　和美氏　（株）麻生飯塚病院 経営管理部　地域共創・広報戦略課長

特別講演２　「時代のニーズに応じた看護教育とは？ 25年前から言ってたじゃない！」
講　師:（一社）日本看護学校協議会　副会長　星　北斗　氏

8月8日（金）

特別講演３　「VUCA(ブーカ）の時代に看護教育はどう向かうのか（仮)」
講　師:東京医療保健大学　副学長　坂本　すが　氏

演題発表（口演・示説）

特別講演４　「これからの地域を支える看護教育」
講　師:参議院議員　石田　昌宏　氏

特別講演５　「看護師が変えた社会をみる」
講　師:笹川記念保健協力財団　会長　喜多　悦子　氏

シンポジウム２「私が病院を飛び出した訳、そして今、見えてきたもの
～未来を担う看護師へ願いを込めて～」
シンポジスト:奥谷　奈美氏（在宅看護センターeN　代表取締役）
西澤　佳子氏（さばえ在宅看護センター　管理者）
入澤　亜紀氏（葵の空在宅看護センター　代表理事）
松村　貴裕氏（株式会社D&Mコーポレーション　代表取締役会長）
コーディネーター:沼崎美津子氏（訪問看護ステーション結　総括所長）
喜多　悦子氏（笹川記念保健協力財団会長）

6）研修会等

⑴ 学校長会

開催日　令和７年５月 27 日（火）
会　場　東京　アルカディア市ヶ谷（私学会館）
テーマ　「これからの看護基礎教育を考える」
内　容　1. 令和６年度厚生労働行政推進調査事業「看護教員のニーズ把握のための研究概要」
2.「学校間ピアレビュー報告」千葉県看護学校協議会
3. 第 37 回学会からのお知らせ
4. 講話「高等教育無償化」について　文部科学省担当者
5. シンポジウム「これからの看護基礎教育を考える」
シンポジスト
「看護基礎教育の現状と課題－看護の動向を踏まえて－」
厚生労働省医政局看護課　課長　習田　由美子　氏
「看護基礎教育に求めるもの」
公益社団法人日本看護協会　会長　高橋　弘枝　氏
「看護師等養成所のつよみを活かした学校運営」
一般社団法人日本看護学校協議会　会長　水方　智子
意見交換

⑵ 事務担当者会

開催日　令和７年 9 月 8 日（月）
会　場　東京　アルカディア市ヶ谷（私学会館）オンライン併用
内　容　未定

⑶ 副学校長・教務主任会

開催日　令和７年 12 月 16 日（火）
会　場　東京　アルカディア市ヶ谷（私学会館）オンライン併用
内　容　未定

2.「日本看護学校協議会 教務主任養成講習会」

開催期間　令和７年４月 12 日(土)～令和８年１月 10 日(土)
受 講 者　7 期生 33 名　6 期生 40 名
講習方法　e ラーニング及び対面授業（演習）

1）e ラーニング　令和７年４月 14 日(月）～11 月 23 日(日)
≪担当講師≫
⑴ 看護教育方法・評価開発　池西　静江氏（鹿児島医療技術専門学校　看護学科顧問）
石束　佳子氏（(専）京都中央看護保健大学校　顧問）
⑵ 看護教育課程開発　高口みさき氏（公益社団法人愛知県看護協会 教育センター長）
⑶ 看護学校経営論　齊藤　茂子氏（東京工科大学医療保健学部　名誉教授）

(4) リーダー論　　水本　徳明氏
(同志社女子大学教職員課程センター特任教授・
京都教育大学大学院連合教職員実践研究科教授)

2) 対面授業（演習）

(1) 看護教育方法・評価開発演習	令和7年 7 月22日(火) ～ 7月25日(金)
(2) 看護教育課程開発演習	令和7年 7 月28日(月) ～ 8月15日(金)
(3) 看護学校経営論演習	令和7年12月15日(月) ～12月19日(金)
	令和8年 1 月 5 日(月) ～ 1月 8 日(木)

＊対面授業の会場　東京会場：横浜実践看護専門学校
＊リーダー論演習（6期生が対象）

≪担当講師≫

(1) 看護教育方法・評価開発演習	池西　静江氏	
(2) 看護教育課程開発演習	福島　統　氏	上間ゆき子
(3) 看護学校経営論演習	時本　圭子氏	
(4) リーダー論演習	水澤　晴代氏	

＊対面授業（演習）の指導協力者

(1) 看護教育方法・評価開発演習	1名
(2) 看護教育課程開発演習	1名
(3) 看護学校経営論演習	2名
(4) リーダー論演習	1名

3. ブロック活動

令和７年度ブロック活動委員会方針（案）

【ねらい】

ブロック活動委員会は、一般社団法人日本看護学校協議会(以下、本協議会)の事業方針をふまえ、全国７ブロックにおいて看護基礎教育に対するニーズや課題をもとに研修会等を積極的に企画運営し、年々、協議会の周知度の向上にも寄与している。今後益々、教育の質向上の為にも本協議会の組織拡大は必須であり、そのための各ブロックの役割は重要となってくる。今後更に全国都道府県代表者会などの機会を通して、全国の看護基礎教育機関の取り組みを共有するとともに、都道府県の看護学校協議会等との連携を図るパイプ役としての役割を継続的に果たす事とする。

以上のことから、令和７年度の活動内容は次の通りとする。

【令和７年度活動方針】

１．各ブロックの県代表者会議を通し、看護基礎教育の課題や協議会へのニーズの集約をする。
２．各ブロックにおける活動の充実：研修会、組織率強化策

【令和７年度具体的活動】

１．について
　1） 確実に検討事項を抽出し、全国都道府県代表者会で協議するプロセスを図る。
２．について
　1）協議会加盟校によるメリットの訴求策の構築
　2）非加盟校からの研修等参加者の追跡フォロー施策の構築
　3）各ブロック委員の意識付強化策の構築：加盟校目標をもとに事務局発信情報の徹底

＜各ブロックの研修会等＞

ブロック名	ブロック研修会		ブロック代表者会議
北海道	開催日 会　場 内　容	未定 未定 インストラクショナルデザイン 講師：北海道大学　高等教育推進機構オープン エデュケーションセンター 助教 杉浦真由美 氏	【第１回】 令和７（2025）年７月 札幌市 年度目標、年度事業計画 【第２回】 令和７（2025）年 12 月 札幌市 報告事項 令和７年度活動報告 令和７年度都道府県代表者会報告 審議事項 令和８年度活動

東　北	開催日 会　場 方　法 内　容	令和７年８月１日(金)午後 宮城県　東北福祉看護学校 ハイブリット形式 テーマ:「新カリキュラム評価」 講　師: Office Kyo-Shien 代表　池西　静江　氏	令和７年８月１日(金)午前 宮城県　東北福祉看護学校 東北６県の代表者及び東北ブロック代表理事 1 名が揃い、テーマをもとに情報交換を行う。また、事前に各県の取り組み紹介の資料を頂き、追加で情報共有及び意見交換を行う。
	開催日 会　場 方　法 内　容	令和８年２月上旬か下旬 福島県　ポラリス保健看護学院 ハイブリット形式 ※2 団体共催開催（東北ブロック、福島県看護学協議会） テーマ検討中 ①シンポジウム ②テーマ別グループディスカッション ③学生発表会	令和 7 年 11 月上旬～中旬 web 開催 東北６県の代表者 第 2 回東北ブロック情報交換会 ・東北ブロック連携システムの活用 ・ICT 教育の紹介など ・今年度の第２回研修会の企画
関東甲信越	開催日 会　場 方　法 内　容	令和７年８月 20 日（水） 東京医薬看護専門学校 オンライン 講演会「魅力ある学校」経営の実践報告 1. 土浦協同病院附属看護専門学校 副学校長　菅野　幸恵　氏 2. 厚木看護専門学校　学校長　五十嵐　一美　氏 3. 山梨県の看護学校（交渉中）	第１回　４月 17 日（木） 第２回　８月 第３回　11 月 第４回　１月
東　海	開催日 方　法 会　場 内　容	令和７年 10 月４日(土)　10:00～12:30 オンライン研修 メイン会場：JA 岐阜厚生連看護専門学校 ※受講者は自校からオンラインで受講 テーマ：(仮)「学生エンゲージメントと心理的安全性」 講　師：山田　剛史　氏 (関西大学教育推進部　副部長・教授)	第１回:令和７年 6 月 第２回:令和７年 7 月 第３回:令和７年 8 月 第４回:令和７年 10 月 第５回:令和７年 12 月
近　畿	名　称 開催日 会　場 内　容 名　称 開催日 会　場 内　容	近畿ブロック研修会 令和７年 10 月 17 日（金） アンピールホテル大阪 日本ポジティブ教育協会による専任教員を元気にする研修会　日本ポジティブ教育協会 近畿ブロック専任教員交流会 令和７年８月１日（金）14：00～16：30 アンピールホテル大阪 各自困っていることを持ち寄り領域別・役職別に分かれてグループワークを実施	第１回 令和７年８月１日（金） 14：00～16：30 第２回 令和７年 10 月 17 日（金） 16：00～17：00　未定 第３回 令和８年２月４日（水） 14：00～16：30

中国・四国	開催日 会　場 内　容	令和７年９月 28 日（日）　9:30～15:00 岡山済生会看護専門学校 ①テーマ：「学習者の可能性を引き出し連携して育てる臨床判断能力」 講　師：愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター 助教 内藤 知佐子 氏 ②情報交換会	第１回：令和７年８月 第２回：令和８年２月
九州・沖縄	開催日 会　場 内　容	検討中 検討中 ①アクティブラーニング ②合理的配慮について　　＊検討中	検討中

2）理事会

回数	開催日	会場・方法	備　考
1	4 月 25 日（金）	当協議会事務局・オンライン	・令和６年度事業報告、会計決算及び監査報告 ・令和７年度事業計画(案)、会計予算(案) ・役員改選（案）
2	5 月 26 日（月）	アルカディア市ヶ谷(私学会館)	・令和 7･8 年度　会長、副会長、常任理事の選任について
3	7 月 11 日（金）	当協議会事務局・オンライン	・総会、学校長会のまとめ ・会務分担等について ・今年度の年間計画の確認
4	11 月 21 日（金）	アルカディア市ヶ谷(私学会館)・	・令和７年度事業及び会計中間報告 ・各委員会、調査進捗状況 ・次年度の事業計画について

3）常任理事会

回数	開催日	会場・方法	備　考
1	令和８年 ３月 24 日（火）	当協議会事務局・オンライン	・令和７年度事業・決算中間報告 ・令和８年度の事業計画（案）

4）一般社団法人日本看護学校協議会あり方検討会（常設）

回数	開催日	会場・方法	内　　容
1	4月 7 日（月）	当協議会事務局・オンライン	報告事項 1）厚生労働省看護職員確保対策特別事業について ・令和6年度の最終報告 2）要望書などの提出状況について 3）中堅期看護教員スキルアップ研修会について 4）第38回学会の進捗状況について 5）その他 ・令和7年度実態調査の進捗状況について 検討事項 1）令和7年度の事業計画（案）について 2）第1回理事会（4月25日）の打ち合わせ ・議長について 3）総会について ・議長、総会後の懇親会について 4）役員改選(案)について 5）その他

6. 委員会

1）常設の委員会　（各委員会開催日などは未定）

委員会名	開催日	会場・方法	内　　容
三役会	4月 3 日（木） 5月14日（水）	オンライン オンライン	1. 4月25日の理事会に向けて 2. 令和7年度の事業に向けて
事務担当者委員会			
教育委員会			
研究費助成選定委員会			
学会企画委員会	4月14日（月） 5月21日（水）	オンライン オンライン	1. 規定・内規・組織図の策定について 2. 第37回、第38回学会について
ブロック活動委員会			
広報委員会			
国家試験・資格試験対策委員会			
政策委員会			
教務主任養成講習会運営委員会			

2）特別委員会

委員会名	開催日	会場・方法	内　　容
実態調査班			
研究倫理審査委員会	4 月 21 日（月）	オンライン	・令和 7 年度 「看護師等養成所の管理・運営等に関する実態調査」審査
専任教員交流会 企画チーム			
教務主任養成講習会 検討プロジェクト 委員会			
管理者研修会プロジェクト委員会			
第三者評価プロジェクト委員会			

7. 部会

1）統合カリキュラム教育実施施設部会（担当校：首都医校）

開催日　令和 7 年 8 月 2 日（土）
方　法　オンライン
内　容　未定

2）准看護師養成教育実施施設部会　（担当校：甲府看護専門学校）

開催日　令和 7 年 11 月 15 日（土）予定
会　場　甲府看護専門学校　予定
内　容　未定

8. 広報活動

1）一般社団法人日本看護学校協議会雑誌

会報特集号
・令和元年～令和 7 年度を作成　ホームページに掲載予定

学会特集号
・第 32 回～第 37 回内容をホームページに掲載予定

9. 会員（正会員・特別会員・賛助会員）について

第4号議案　令和7年度 会計予算(案)

令和 7 年度 総括表（案）

自 令和7年4月1日　至 令和8年3月31日

（単位:円）

科 目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	差引増減△額(A-B)
収入の部			
1. 会費収入	23,500,000	23,360,000	140,000
2. 事業収入	47,985,000	56,719,000	△ 8,734,000
3. 義援金収入	0	0	0
4. 雑収入	300,000	100,000	200,000
収入合計	71,785,000	80,179,000	△ 8,394,000
支出の部			
1. 管理費	26,010,000	31,120,000	△ 5,110,000
2. 事業費	24,100,000	37,100,000	△ 13,000,000
3. 義援金支出	0	0	0
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0
5. 部会助成費	280,000	285,000	△ 5,000
6. 租税公課	1,600,000	1,600,000	0
7. 特定預金支出	100,000	400,000	△ 300,000
8. 雑費	5,500,000	500,000	5,000,000
支出合計	59,590,000	73,005,000	△ 13,415,000
収支差額	12,195,000	7,174,000	5,021,000
前年度繰越金	64,443,890	61,523,797	2,920,093
次年度繰越金	76,638,890	68,697,797	7,941,093

令 和 7 年 度 一 般 会 計 予 算(案)

自　令和7年4月1日　　至　令和8年3月31日

（単位：円）

科　目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	差引増減△額(A-B)	備　考
収入の部				
1. 会費収入	23,500,000	23,360,000	140,000	
1)正会員費	22,250,000	22,150,000	100,000	予算：445校
2)特別会員費	0	10,000	△ 10,000	予算：0名
3)賛助会員費	1,250,000	1,200,000	50,000	予算：25社
2. 事業収入	47,985,000	56,719,000	△ 8,734,000	
1)研修会等参加負担金	22,248,000	23,940,000	△ 1,692,000	研修会等参加費12,945,000円 教務主任養成講習会受講料9,303,000円
2)傷害保険集金事務費	14,000,000	14,000,000	0	令和5年度、令和6年度、令和7年度
3)広告費	200,000	330,000	△ 130,000	
4)共同事業費	1,188,000	1,188,000	0	
5)専任教員養成提携事業費	1,200,000	1,500,000	△ 300,000	
6)補助金等	9,149,000	15,761,000	△ 6,612,000	教務主任養成講習会9,000,000円 東京都テレワーク助成金　149,000円
3. 義援金収入	0	0	0	
4. 雑収入	300,000	100,000	200,000	
合　計	71,785,000	80,179,000	△ 8,394,000	
支出の部				
1. 管理費	26,010,000	31,120,000	△ 5,110,000	
2. 事業費	24,100,000	37,100,000	△ 13,000,000	
3. 義援金支出	0	0	0	
4. 学会助成費	2,000,000	2,000,000	0	
5. 部会助成費	280,000	285,000	△ 5,000	
6. 租税公課	1,600,000	1,600,000	0	
7. 特定預金支出	100,000	400,000	△ 300,000	
8. 雑費	5,500,000	500,000	5,000,000	
合　計	59,590,000	73,005,000	△ 13,415,000	
収支差額	12,195,000	7,174,000	5,021,000	
前年度繰越金	64,443,890	61,523,797	2,920,093	
次年度繰越金	76,638,890	68,697,797	7,941,093	

一般会計　支出内訳（案）

（単位：円）

科　目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	差引増減△額(A−B)	備　考
1.　管理費	26,010,000	31,120,000	△ 5,110,000	
人件費	11,000,000	14,400,000	△ 3,400,000	給与、社会保険料
旅費交通費	2,200,000	2,500,000	△ 300,000	通勤費、理事会・常任理事会等
通信運搬費	1,650,000	800,000	850,000	TEL、切手他、振込手数料
地代家賃・賃借料	8,500,000	9,120,000	△ 620,000	リース代 含む
水道光熱費	450,000	450,000	0	
備品消耗器材費	450,000	450,000	0	テレワーク備品含む
印刷製本費	150,000	250,000	△ 100,000	コピー、封筒
会議費	150,000	150,000	0	
支払手数料	1,460,000	3,000,000	△ 1,540,000	顧問料
2.　事業費	24,100,000	37,100,000	△ 13,000,000	
人件費	3,500,000	3,300,000	200,000	
講師等謝金	7,500,000	10,000,000	△ 2,500,000	
旅費交通費等　※日当含む	4,400,000	6,000,000	△ 1,600,000	
通信運搬費	350,000	600,000	△ 250,000	
賃借料	3,000,000	3,300,000	△ 300,000	研修会会場費、教務主任養成講習会会場費（横浜）
備品消耗器材費	150,000	200,000	△ 50,000	
印刷製本費	100,000	400,000	△ 300,000	
研究助成費	300,000	300,000	0	
会議費	300,000	500,000	△ 200,000	
雑誌等出版費	500,000	500,000	0	
委託費	4,000,000	12,000,000	△ 8,000,000	研修会配信料、教務主任eラーニング運営委託料
3.　義援金支出	0	0	0	
4.　学会助成費	2,000,000	2,000,000	0	
5.　部会助成費	280,000	285,000	△ 5,000	
6.　租税公課	1,600,000	1,600,000	0	
7.　特定預金支出	100,000	400,000	△ 300,000	
8.　雑費	5,500,000	500,000	5,000,000	図書購入費、慶弔費、役員慰労金、事務所移転費用
合　計	59,590,000	73,005,000	△ 13,415,000	

令 和 7 年 度 特 定 預 金 （案）

自　令和7年4月1日　　至　令和8年3月31日

1. 収入の部　　（単位：円）

科　目	本年度予算額（A）	前年度予算額（B）	差引増減△額（A−B）	備　考
1. 預金額	100,000	400,000	△ 300,000	
2. その他	1,000	12	988	預金利息
前年度繰越金	2,201,204	1,800,282		
次年度繰越金	2,302,204	2,200,294		

第5号議案　　令 和 7 年 度 役 員 改 選（案）

令和7年度・令和8年度　一般社団法人日本看護学校協議会　役員候補者名簿

（敬称略）

		氏　名	都道府県	施設名、(職位)、所在地、課程	推薦人氏名 属　性
理事	1	戸田　悦子	北海道	砂川市立病院附属看護専門学校（副学校長） 砂川市西4条北1丁目1番5号 3年課程	
	2	田所　亮一	〃	北海道看護専門学校（校長） 札幌市中央区南2条西11丁目328-7 3年課程	
	3	小野寺江利子	青森県	八戸看護専門学校（副学校長） 八戸市大字河原木字北沼22番地41 3年課程	八戸看護専門学校 学校長 虫明　元
	4	星　　北斗	福島県	ポラリス保健看護学院（学院長） 郡山市向河原町159-7 統合カリキュラム	
	5	大戸　和子	〃	福島看護専門学校（校長） 福島市栄町1番37号 3年課程	
	6	小笠原　幸	茨城県	アール医療福祉専門学校（副学校長） 土浦市湖北2-10-35 3年課程	
	7	山田かおる	千葉県	勤医会東葛看護専門学校（副校長） 流山市下花輪409番地 3年課程	
	8	飯野　伸子	東京都	東京医薬看護専門学校（副校長・教務主任） 江戸川区中葛西5-13-4 3年課程	
	9	槁本　幸	神奈川県	相模原看護専門学校（校長） 相模原市南区新磯野4-1-1 3年課程	
	10	河西　光子	山梨県	共立高等看護学院（副学院長） 甲府市飯田3丁目1-35 3年課程	
	11	恒﨑　康子	愛知県	八事看護専門学校（副学校長） 名古屋市天白区大坪2-301 2年課程(定)	
	12	岩田　正美	〃	名古屋医専（教官） 名古屋市中村区名駅4-27-1 統合、3年課程(4年制)、3年課程、助産師学科、保健師学科	名古屋医専 副学校長　北林　由紀子
	13	山根ひとみ	三重県	社会医療法人畿内会 岡波看護専門学校（副学校長） 伊賀市上野桑町1596番地１ 3年課程	社会医療法人畿内会 岡波看護専門学校 学校長　湯村　美雪
	14	谷本千亜紀	京都府	京都保健衛生専門学校（副校長兼教務部長） 京都市上京区千本通竹屋町東入主税町910 3年課程	
	15	水方　智子	大阪府	パナソニック健康保険組合立松下看護専門学校(前副学校長) 守口市早苗町7-10 3年課程	パナソニック健康保険組合立松下看護専門学校 副学校長　大谷　弘恵
	16	奥田　尚美	〃	関西看護専門学校（副校長） 枚方市津田東町2丁目1-1 3年課程	
	17	西田　好江	〃	泉佐野泉南医師会看護専門学校（副学校長） 泉佐野市湊1丁目1-30 3年課程	
	18	万代ゆかり	岡山県	岡山労災看護専門学校（教務長） 岡山市南区築港緑町1-10-25 3年課程	岡山労災看護専門学校 学校長　伊達　勲
	19	今田　良子	愛媛県	四国中央医療福祉総合学院(学生部長兼看護学科学科長) 四国中央市中之庄町1684-3 3年課程	
	20	平瀬　節子	高知県	近森病院附属看護学校（副学校長） 高知市大川筋1丁目6-3 3年課程	近森病院附属看護学校 学校長　山﨑　正博
	21	百瀬栄美子	福岡県	専門学校麻生看護大学校（顧問） 飯塚市芳雄町3-83 3年課程、2年課程(通)	専門学校麻生看護大学校 校長　安藤　廣美
	22	外薗　由紀	熊本県	熊本看護専門学校（教務部長） 熊本市西区上熊本1丁目10-8 3年課程	
	23	藏下　園子	沖縄県	那覇市医師会那覇看護専門学校（学校長） 豊見城市字渡橋名289番地23 3年課程	
監事	1	髙瀬　　徹	群馬県	税理法人サードステージ（代表社員税理士） 高崎市飯塚町416番地3	
	2	時本　圭子	岡山県	倉敷中央看護専門学校（副校長） 倉敷市鶴形1丁目8番5号 3年課程	